

農業・生活・地域の新たな拠点づくりとは

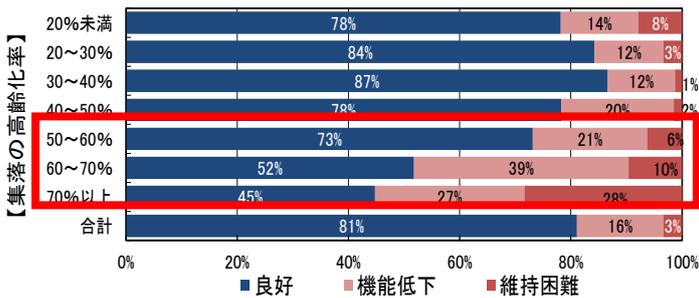
農村集落での集住化と拠点整備手法の構築

背景

- 農村集落では地域産業が衰退し、雇用不足に困っています。
- 急激な人口減少や超高齢化のため、農村集落の生活利便性は低下し、地域コミュニティも衰退しています。
- 水道、除雪などのインフラ維持管理も負担が増大しています。
- 生活環境の向上と産業振興を同時に実現する手段として、農村集落での「集住化」の取り組みが期待されています。

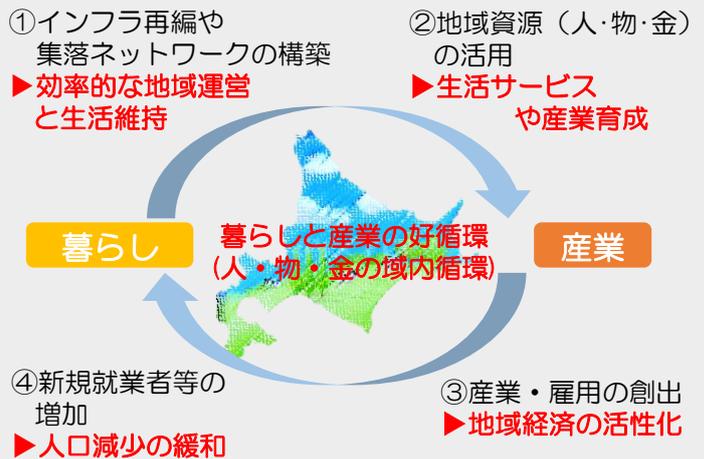
農村集落の現状は？

- 近年、100人以下の集落が急増（2019集落）
- 住民の40%以上が高齢者である集落は1281集落
- 超高齢集落では集落機能が低下し、維持が困難



高齢化率別の集落維持状況
(北海道集落実態調査 n=3,757)

新たな農村集落像とは？



成果

1 集住化ニーズの把握 (アンケート・インタビュー調査)

【すぐ入居したい人は？】

- 新規就農者、後継者世代（～30代）、高齢者

【将来入居したい人は？】

- 40～60代の現役世代

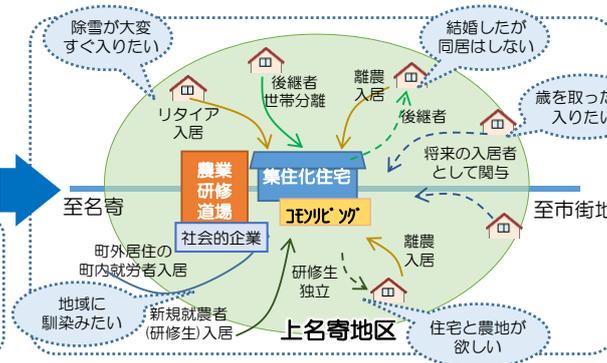
【集住単位・場所は？】

「集落内」で、「集落単位」で住みたい

【拠点機能は？】

子育てなどの相互扶助機能や食事サービス

2 集落内の住み替えイメージ

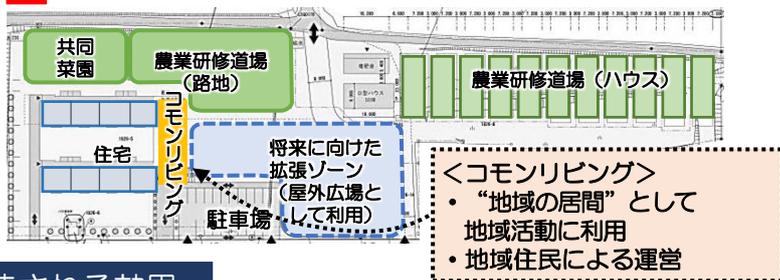


3 拠点整備機能の検討

- 入居希望者と地域住民で検討
- コモンリビングの必要な機能と運営方法などを具体化



4 計画・設計支援



5 集住化と拠点整備手法

- 集落内の集住化手法を検討
- ニーズ
 - 整備機能
 - 運営主体

今後、拠点集落、市街地で集住化を検討

期待される効果

- 新規就農者、後継者の定住
 - 高齢者の流出抑止
 - コミュニティの醸成
 - 地域運営の担い手育成
- 集落の定住促進、集落機能の持続性向上